令和７年度　自己点検・自己評価結果

１．評価基準

「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」（看護師等養成所の教育活動などに関する自己評価指針作成検討委員会まとめ）をもとに評価基準を改定した深谷大里看護専門学校改訂版（令和２年度改定）に基づいて令和７年度の自己点検・自己評価を実施した。

２．評価点

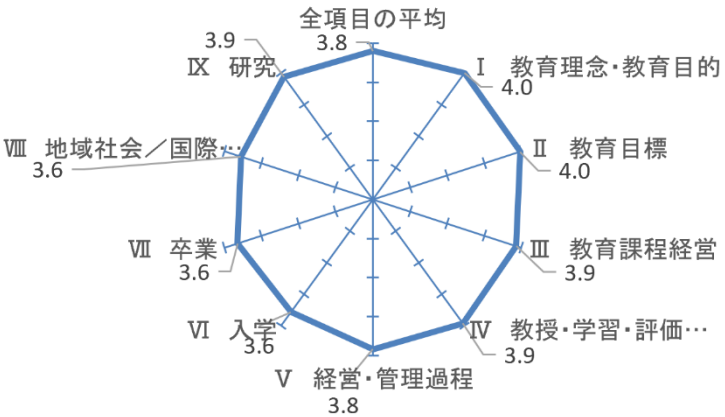
４点：よく当てはまる・・・・・・７０％以上満たしている
３点：当てはまる・・・・・・・・３０％～７０％満たしている
２点：あまり当てはまらない・・・３０％以下しか満たしていない
１点：当てはまらない・・・・・・満たしていない

３．評価者

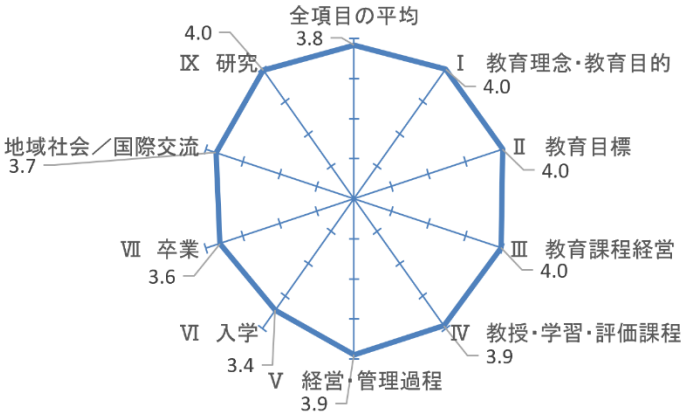
教職員全員（教員・事務）

４．結果

【３年課程令和７年度】



【２年課程通信制令和７年度】



．総括

１）自己点検・自己評価は、良い学校作りを目指して実施しており、項目ごとに分析した結果を、以下の２つの視点でまとめる。

（1）評価点が3点以上で、学校として評価できる項目

Ⅰ～Ⅸすべてが3点以上であり、3年課程、2年課程通信制ともに自らの教育活動や学校運営について適正に取り組んでいるとの評価結果であった。

Ⅰ教育理念・教育目的・Ⅱ教育目標・Ⅲ教育課程経営・Ⅳ教授・学習・評価課程の評価は、3.8～4.0と安定して高評価である。

Ⅰ教育理念・教育目的・Ⅱ教育目標については、ガイダンスやHR等で繰り返し学生に説明し、理解を促している。学生の卒業時に実施しているアンケート結果は、教育目標の到達度が高い状況である。また、教員も教育活動の指針として常に意識化し、集中会議において、カリキュラムの評価、検討を行い、共通認識を持つことができていると考える。これらにより高評価となっている。

Ⅲ教育課程経営においては、3年課程、通信制の両課程において、新カリキュラムが定着し各々の教員が授業評価を行い、課題について検討・改善し臨んでいることから高評価に繋がっていると考える。

大項目Ⅲの中項目〈教員の研究活動の充実〉について、各自積極的に様々な研修に参加し自己研鑽に努めている。学校としてのサポート体制はできているが、紙面での研修報告書の回覧が主であり、伝達講習の時間調整が難しい。可能な限り調整し、伝達講習の機会を設けていく。また、業務の中で研究に取り組めるような体制づくりも課題と感じている。

高評価点の大項目Ⅲの中にあり、3.4, 3.5と比較的低い評価点になっている中項目〈看護実践体験の保証〉では、実習施設において実習目標の理解が浸透しておらず、臨地での指導内容や学習環境にばらつきを感じているとコメントがある。実習施設への説明は臨地実習調整会議を各々の施設で実施し、臨地実習直前や実習開始後においても情報交換を行っているが、実習指導者が固定されていないため浸透が難しい現状が見られる。今後も密に調整を行い、可能な限り指導担当者を固定してもらえるよう依頼し指導内容にばらつきが生じないよう努力していく。

Ⅳ教授・学習・評価課程の大項目は3年課程では、3.9で令和6年度と比較すると0.1ポイントの上昇で高評価である。教授方法は知識獲得のための注入型の講義やアクティブラーニング（演習・グループワーク）も同時に実施している。中項目、小項目合わせ評価が下がった項目は無かった。

中項目〈授業内容と教育課程との一貫性〉について、評価点は昨年同様高評価である。授業内容はカリキュラムツリーやシラバスに添って順序性、相互の関係性が明確であるため一貫性を持ち構築されている。更に、学生のレディネスの変化に合わせ、教員は、教授方法をスモールステップにしたり、グループワークの時間を増やしたりと工夫してブラッシュアップしている。

しかし、1科目を複数名の教員で担当する科目については、教員相互での授業内容のすり合わせが難しいとのコメントや、外部講師との授業内容の振り分けについて内容の共有や調整が困難であるとの指摘がある。これは臨地実習の引率との兼ね合いで不在になり、教員相互で内容調整の時間や、科目開始前に外部講師との情報共有の場が取れない現状からこの様なコメントにつながっていると推察される。今後の課題として、当該教員間での授業内容や学生の習熟状況について情報を共有し密

に調整する時間やツールを確保していく必要がある。

中項目〈授業の展開過程〉でも、3 年課程では、評価ポイント 0.1～0.2 上がり高評価である。しかし令和 7 年度生の入学者選抜から総合型選抜導入の影響のためか、これまでより学習者のレディネスの幅が一層広くなったと感じられた。そのため今まで以上に教授方法の工夫や、個別的サポートが必須であると考える。また、授業や学内演習で一度は獲得している知識や技術が臨地実習等で生かされない学生が目立つ。知識が長期に定着するための具体的な対策を今後検討していく。また、教員間の協力体制について、臨地実習の引率人数との関係で、学内演習のサポート人数がままならない状況もある。協力体制はあっても、実人数が不足という状況は否めない。課題解決に努力していく。

通信制でも 4.0 の高評価である。対面授業日数が少ない通信制では、通信教材に QR コードを添付し、そこからオリジナル動画を視聴できるよう教材を工夫し、通信授業での臨床判断能力育成のために、自宅でも対面授業と同様の臨場感のある学習効果が得られる工夫を実践しているため高評価となっている。

中項目〈学習への動機づけと支援〉について昨年度より 0.1 ポイント上がり 3.9 と高評価であり、特に注目すべき点は学生の個別性を考えた支援が継続的に行われていることに対しての評価が 0.2 ポイント上昇していることである。これは学力の支援だけでなく、個別の事情を踏まえた、生活面に対しても一層学生に寄り添った支援を行っている状況を鑑みての評価である。結果として令和 7 年度の新卒生も昨年同様看護師国家試験に全員合格した。しかしその一方で、シラバスがうまく動機づけとして活用できていないというコメントが複数寄せられていた。これは、動画や画像で育った Z 世代の特徴を考慮し、紙面のシラバスに加え学習の動機づけにつながるものを検討していく必要がある。

通信制でも、同様に 3.9 の高評価である。中項目の〈学習支援への動機付けと支援〉に関しては、通信でありながらも、担当制の継続により担当学生の学習計画表を用いて、学習計画と結果、学習の進捗と学力の推移が可視化でき、学生と担当教員とで共有することでより具体的、個別的な支援が可能になった。また、必要単位以外にも国家試験対策係を中心とした、継続的な国家試験対策が実施されている。更に新たに「国試ナビ」という、段階的、継続的に学習できる自由参加の学習支援を開始した。学生は、対面授業の参加やオンデマンド視聴にて各々の都合に合わせ学習可能である。学生の状況に合わせ学習できる学習機会の増加とともに支援体制を整えていることが高評価となった理由であると考える。

Ⅴ経営・管理課程・Ⅵ入学・Ⅶ卒業・Ⅷ地域社会・国際交流・Ⅸ研究の評価は、3.7～4.0 である。

Ⅴ経営・管理過程について、令和 6 年から横ばいの 3.8 であり、これは、自己点検アンケート回答時、関係資料の提示のみから、令和 5 年度より学校設置者と管理者の考え方や組織の体制における役割や機能について口頭説明を加えることにより回答者全体に周知され、年々理解が深まっていると考えられる。

中項目〈学校に関する情報提供〉が大項目Ⅴの中において 3 年課程、通信制で 3.4、3.3 と低い結果である。これは学生募集停止に伴い、募集に関する広報活動を実施しなかったことにより評価を下げていると思われる。しかし、具体的にはインスタグラムやホームページなどで授業風景や式典の様

子、学校行事など学内の様子を発信している。また、福祉健康祭りやボランティア活動も実施している。これらの活動も学校の広報活動の一環と考え、その旨を教職員に周知していく。

中項目〈学校の運営計画と将来構想〉についても 3 年課程 3.4 通信制 3.5 と若干低い結果である。この項目についても学生募集を行わないことや、自己点検・自己評価の実施時期に、学校の継承先や運営について不透明であったため評価点を下げたと考える。

中項目〈人権の配慮〉については、3 年課程 3.9、通信制 4.0 と高評価である。学校ではハラスメント窓口の周知とハラスメンと防止に関する啓発、アンケート調査などを実施し、教職員に対しては研修を実施している。ハラスメントに関し 1 件の申告もないが、プライベートなことや評価に関わることなど繊細な内容については注意を払っていく必要がある。

Ⅵ入学については 3 年課程 3.7 から 3.6 と 0.1 ポイント、通信制は 4.0 から 3.4 と大幅に評価を下げている。令和 7 年度に学生募集を停止したため、入試の実績がないことが評価を下げた理由である。評価が下がるのではなく評価対象から項目を外すべきであった。

Ⅶ卒業は、卒業時の到達状況を評価し、卒業認定会議を経て認定されている。3 年課程では、令和 7 年度も新卒生全員が国家試験に合格したため国家試験に関連する項目のポイントが上昇している。例年 3 年生の担当教員が個々の学生の成績を加味し、個別的な学習支援の方法を工夫していることにより全員合格という結果に結びついている。また、学校は卒業生に対し卒後も個別に相談に乗り、再就職支援や離職後のフォローも行っている。在学中から個別的な支援を行っているため、卒後も担当教員への近況報告があり状況の把握に繋がっている。また、卒後も研究等で図書室を活用する姿も見られ、卒後も継続的にサポートする体制がとられ卒業生の拠り所としての役割を担っている。来校する卒業生に関しては状況の把握は可能である。しかし、大項目として 3 年課程、通信制ともに評価を 0.2 ポイント下げている。考えられる理由として、「卒業性の就職先での状況を把握している」「卒業生の就職先との情報交換ができる体制を整えている」の小項目が 3.1～3.4 と低い評価となっているため大項目の評価点を下げる結果となっている。通信制では、例年、実習調整会議や広報活動にあたり、卒業生の活躍を見聞きする機会を得ているが、学生募集停止に伴い学生募集の広報活動を実施しなかったため、例年出向いた先の病院で卒業生の情報を得ていたが、令和 7 年度はそれらができず評価を下げたと考える。また、3 年課程、通信制ともに、実習先に就職した卒業生に限定すると、卒後の状況は把握できている。しかし、実習先以外の就業先に関しては、情報交換ができる体制は整っていない現状であるため、今後検討していく必要がある。

Ⅷ地域社会・国際交流の評価点は 3 年課程で昨年 3.7 であったが令和 7 年 3.6 と高評価ではあるものの 0.1 評価点を下げている。

中項目〈地域社会〉の「学校は地域社会の一員として広報・貢献・奉仕活動・連携を行っている」の小項目の評価点が 3.8 から 3.4 と低下している。これは、学生募集停止により、一部の広報活動が縮小したことと、学生ボランティアの参加学生に偏りが見られ、例年に比べ活発な参加とは言えない状況から評価を下げている。学生募集以外の広報については、SNS を通じ、広く社会に発信している。地域への貢献については、卒業生は進学者を除き看護師として多くが近隣地域に就職しており、

地域社会への貢献度は高いと考える。通信制も同様に、募集停止に伴い一部の広報活動が縮小したことにより 4.0 から 3.9 と 0.1 ポイント低下している。しかし、ボランティア活動に参加していることや、通信制の学生は地域で就業しながら在学するため、地域で活躍している人材を減らすこと無く、スキルアップし、更には卒業後も同じ地域、同じ就業先で勤務し続けるため地域への貢献度は非常に高い。

中項目〈国際交流〉の評価点は 3 年課程で 3.6 から 3.5 と 0.1 評価点が下がっている。コメントとしてパーソナルコンピュータの台数が限られていることが理由である。しかし、インターネット環境は整備されており、個人のデバイスを使用するうえでは制限はない。カリキュラムとしては国際的視野を広げられるよう国際交流論において、臨床の場に多く見られるようになった外国籍の方と人的交流を図る授業の取り組みを行っている。通信制の評価点も 3.9 から 3.6 と評価点が下がっている。これは令和 6 年に在籍していた外国籍の学生が卒業し、外国籍の学生が在籍していないことや、3 年課程同様パーソナルコンピュータの台数が限られていることに起因する。通信制では過去にも数名の外国績を有する学生が在籍し、看護師資格を取得し卒業した実績がある。外国籍の学生が看護職につくための受け入れ基盤は整備されている。

IX研究については 3 年課程 3.9 通信制 4.0 と高評価である。教員は研究依頼に協力し、研修会や学会にも積極的に参加しているなど高評価の理由であるが、現状として、研修内容について、紙面での伝達としている。しかし、受講した教員から紙面ではなく直接伝達講習を受けたいとのコメントがあり今後、伝達講習の機会を設けるよう善処していく。通信制では、通信制の入学要件についての妥当性検証の研究に協力し、令和 4 年度より行われている厚生労働科学特別研究事業の通信制看護学校用の教材作成のための主要メンバーとして令和 6 年まで活動した。令和 7 年度は、全国通信制看護学校協議会の会長校として、通信制入学要件の変更に際し、協議会としての一定の基準をとりまとめ明文化した。両課程ともに研究に価値を置く職場風土が継続されている。

(2) 大項目では 3.5 点以上だが、中項目、小項目で確認された課題

3 年課程、通信制ともに、小項目「卒業生の就業先との情報交換ができる体制を整えている」という項目の評価点が 3. 2 と低い評価となっている。実習先の施設については情報交換が可能であるが、それ以外の施設においてはその体制が無い。通信制に限っては、学生募集に際して広報活動時に情報交換が可能ではあるが、卒業生の状況を把握する目的とは言えない。3 年課程、通信制ともに、卒業生の状況を把握する体制について検討していくことが今後の課題である。